

第3号様式

令和7年度 第5回中央公民館運営審議会会議録

(令和8年4月13日作成)

- 1 開催日時 令和8年3月19日(木) 午後3時05分～午後4時28分
- 2 開催場所 浜町公民館 2階 第2・3集会室
- 3 出席者
  - (1) 委員 沼波委員、山中委員、三宅委員、宮崎委員、中野委員、染谷委員
  - (2) 事務局 中央公民館長、浜町公民館長、宮本公民館長、海神公民館長、中央公民館長補佐、中央公民館広域事業担当者
- 4 欠席者 中原委員
- 5 議題及び公開・非公開の別並びに非公開の場合にあっては、その理由
  - (1) 12月18日から3月31日までの事業報告について 公開
- 6 傍聴者数 0人
- 7 決定事項
  - (1) 12月18日から3月31日までの事業報告を承認した。
- 8 議 事 次ページより
- 9 資料・特記事項
  - (1) 傍聴者配布用資料  
各公民館の12月18日から3月31日までの事業報告 別紙1
  - (2) 特記事項 次回は令和8年4月30日(木) 午後3時～ 東部公民館
- 10 問い合わせ先 中央公民館 047-434-5551

令和7年度 第5回 中央公民館運営審議会  
議事録

日 時	令和8年3月19日（木） 午後3時05分～4時28分
会 場	浜町公民館 2階 第2・3集会室

午後3時05分開会

○事務局（中央公民館長補佐）

ただいまより、令和7年度第5回中央公民館運営審議会を開会いたします。

議事に入ります前に、定足数についてご報告いたします。本日は中原委員1名が欠席でございますが、船橋市公民館条例施行規則第15条第3項の規定によりまして、半数以上の出席がございますので、この会議は成立となります。

また、会議の公開につきましては、船橋市情報公開条例第26条及び附属機関等の会議の公開実施要綱の規定により、当審議会も原則公開となります。本日の傍聴者はおりません。

それでは、議事に入りますが、議事の進行につきましては、船橋市公民館条例施行規則第15条第2項の規定により、委員長が会議を整理することとなっております。

沼波委員長、議事進行をお願いいたします。

○沼波委員長

よろしくをお願いいたします。

それでは、12月18日から3月31日までの各館の報告をよろしくをお願いいたします。

中央からよろしくをお願いいたします。

○中央公民館長

中央公民館でございます。よろしくをお願いいたします。

報告1ページの青少年事業の「ふなばしハッピーサタデー」になります。こちらは記載のとおり1件を実施いたしました。2月の会場が商工会議所の2階ということで、定員、参加人数とも10名という形で実施いたしました。ただ、10名の中でふだん参加することが少ない高学年の子が今回参加されたということで、こちらについてはプラスで、公民館として幅広い年代の子たちに利用してもらえることはよかったですと感じております。

今回が最後のハッピーサタデーということになりまして、年間を通しての評価になりますが、ハッピーサタデー事業では、ふだん学校等で体験することがない理科の実験や、工作、料理など、幅広い分野での体験が提供できたということで、その部分は非常にプラスであったのかなと考えております。次年度以降も子供たちの興味を引くような内容を考えております。

なお、実施の会場ですけれども、運動や料理など、ハッピーサタデーは小学生が中心という形になりますので、商工会議所の2階ですと会議室の部屋が狭いということで、来年度は浜町公民館のほうで共催という形で実施できればと考えております。

続きまして、成人事業の「リカレント教育講座『プレゼン上達塾』」です。こちらは3月14日実施の参加人数の記載がないので、すみませんが、記載のほうをお願いしたいと思います。参加者は9名となります。

続きまして、その下のその他事業の「若草の会」です。こちらについては、宮本公民館を会場として2回実施いたしました。3月15日の参加人数につきましては、64名となっております。こちらの事業は、支援学級、支援学校の卒業生が交流する場として重要な活動となることから、公民館でも次年度も引き続き継続するように支援してまいりたいと考えております。

続きまして、報告の2ページ、「飯盛大仏、船橋の寺町を巡る！街歩き講座」です。こちらの事業は定員に達して非常に人気があったのですが、講師の方が急に体調を悪くされたということで、残念ながら中止となってしまいました。

続きまして、その下の「世界遺産講座」になります。こちらは募集開始当日に定員に達する非常に好評な事業で、参加された方からも「また継続したい」という好意的なご意見をいただいております。次年度以降も実施をする予定でございます。3月6日の人数ですが、20名となります。

続きまして、その下にあります「ENJOY！サンバ～学んで踊れば楽しさ倍倍FIGHT！～」です。こちらは、定員が20名なのですが、3月7日の参加人数は17名となっております。

続きまして、報告3ページです。「巡回児童ホーム事業」になります。最初に3月6日の参加人数のご記入をお願いしたいと思います。19組で37名の参加となっております。こちらは、中央公民館の本町地区に児童ホームがないことから、親子の触れ合い、親同士の交流、児童の体験機会の創出となる貴重な事業となっております。昨年12月から中央公民館が休館となったことから、きららホールを会場としたところ、こちらの周知が不足していたこともありまして、参加人数が少なくなりました。周知方法等については検討が必要と考えているところでございます。

報告事項の最後になります。南部ブロック公民館合同事業「千葉ジェッツとのコラボ企画『シニア向けチアダンス講座』」になります。シニア世代向けに、楽しく、健康づくりに役立ててほしいということで、千葉ジェッツ側からの申出により実施した事業となります。こちらの浜町公民館を会場に、32名の参加がありました。なお、当日の様子ですが、船橋市の広報課が取材に訪れまして、「ふなばしCITY NEWS」のほうにも取り上げられております。こちらについては、船橋市のホームページからご覧になることができますので、皆様お時間がございましたら、ぜひとも見ていただければと思います。

中央公民館からの報告は以上となります。

○沼波委員長

ありがとうございます。

では、次に浜町公民館、お願いいたします。

○浜町公民館長

浜町公民館の12月18日から3月31日までの事業報告をいたします。

まず初めに、青少年の部、「遊びの学校・ハッピーサタデー」でございます。地域で活躍されている様々な団体の方にご協力をいただきまして、多種多様な講座を地域の子供たちに提供できたと考えております。1月10日は「こどもダンス教室」、2月22日の「わんぱくフェスタ」につきましては、別に説明させていただきます。

続きまして、「浜の子どもキッチン」です。「浜の子どもキッチン」は、海が見える公民館の特色を生かす事業として、浜町にてこども食堂を実施しているNPO法人コハレLABOとの共催事業として実施しました。船橋市が現在PRに力を入れているコノシロを食材とした親子対象の料理教室として実施し、学生ボランティアが数名ずつ各親子の調理をサポートし、非常に和気あいあいと楽しく開催した事業となりました。

報告2ページとなります。「わんぱくフェスタ」は各公民館で開催しているこどもまつりとなります。今年も開催日が船橋港親水公園にて開催された子育てイベント「みらいく」と重なったことから、「わんぱくフェスタ」への集客を懸念しましたが、昨年と同様に浜町地区一帯での大きな子供イベントとなり、4,000人を超える方々が訪れ、多くの子供たちが楽しみました。

続きまして、高齢者事業となります。「いきいき健康大学」は、年10回の学級講座にて実施しております。年々、後半に向かって参加人数が減ってくる傾向なのですが、先日、最後の講座として行いました「卒業コンサート」は、60名の方に参加いただきました。また、この講座を通じて、受講された方々のつながりも生まれておりまして、講座が始まる1時間くらい前に皆さんが集合し、10人くらいの方が公民館2階に設置したボッチャコートでボッチャを楽しんでいらっしゃいます。見学だけの方もいますが、講座を通じた仲間づくりの一助になったものと感じている次第です。来年度も同様に実施したいと考えております。

報告3ページとなります。「生き生きと若々しく過ごすための教室」は、介護予防教室として健康づくり課との共催事業で実施しました。介護予防運動指導員による体操などが中心の内容で、参加者には大変好評な講座となりました。この時期に開催することで、体調不良等により欠席者が多い日もありましたが、寒い時期は特に高齢者の方は外出機会が減りがちになりますので、健康を維持していくための外出機会づくりにも役立てたものと思っております。

報告4ページとなります。「ふなばしシルバーリハビリ体操教室」も健康づくり課との共催事業として実施しました。講師の方も非常に真剣に、かつ、毎回必ず健康づくり課の職員も来館し、熱心に行っております。また、ボランティアの方たちも非常に熱心に取り組んでくださり、多くの方に参加いただいております。3月12日開催の参加者数は45名となります。

「ふれあいいきいきサロン華の会」は、湊町地区社会福祉協議会との共催事業として、毎回様々な内容で熱心に活動いただいているところです。3月11日の参加者数ですが、

23名となります。

報告5ページとなります。続きまして、その他事業です。「サークル活動見学・体験会」は記載のとおり実施しました。この事業はサークル入会の一つのきっかけになることから、来年度も開催を検討したいと思っております。

「すくすく広場」は湊町地区社会福祉協議会との共催事業で、記載のとおり実施し、3月24日も同様の内容で実施する予定です。現在、定員数30名の募集に対して、こちらも定員数いっぱいになっている状況です。0歳児の親子を迎えて実施する事業であり、参加希望者が多く、毎回キャンセル待ちが出る人気の事業となっております。

報告6ページとなります。「若松小・中学校家庭教育セミナー」は、若松小学校後援会等との共催事業で、記載のとおり実施しました。

「第59回こんさーとin風のまち浜町」は、船橋市全体で行われました地域ふれあいコンサートの一環事業として実施しました。船橋生まれ船橋育ちのシンガー、恭子さんを迎えてのライブコンサートで、参加された方々は、ピアノの演奏による美しい歌声を堪能し、大変満足されるコンサートとなりました。船橋市宮本で生まれ育った恭子さんにとっては地元で、自身も思い出深いコンサートになったと終了後に話されていました。

浜町公民館からは以上となります。

#### ○沼波委員長

ありがとうございました。

では、引き続き宮本公民館、よろしく願いいたします。

#### ○宮本公民館長

宮本公民館から報告いたします。

まず、青少年の部の「ハッピーサタデー」です。「ハッピーサタデー」は記載の事業を開催しております。「勾玉を作ろう！」については、当初20人の定員を予定しておりましたが、50人を超える申込みがあったため、講師と相談し、2部屋に分けて開催することで定員を増員して開催いたしました。

年間を通じ、児童ホームをはじめ地区のスポーツ推進委員や青少年相談員、社会福祉協議会など、地域の協力を得ながら、創作、軽スポーツ活動、イベント活動など、バランスを考慮して令和7年度は企画してまいりました。今後も地域の方々と連携し、子供たちに様々な体験の機会を提供していきたいと考えております。

次に、「親子料理教室」です。こちらは国際交流課の講師の下、中国のお正月に食べるお菓子、白玉団子（タンユエン）を親子でつくっていただきました。ゴマあんに粉をつけて何度もお湯をくぐらせて大きなお団子にしていくという工程を親子で楽しんでいただきました。

「みやもとこどもまつり」です。当日は風が強く、かなり寒くて、模擬店などは場所を変更するなど対応に追われましたけれども、日大鉄道研究会の本格的なNゲージやプラ

ルールに子供たちは目を輝かせておりました。また、社会教育関係団体の皆様にもご協力いただき、子供たち、親子で楽しんでいただいております。人数は、児童ホームからの報告ですと 5,849 人ですけれども、実質は 500 人ぐらいだったかなと。延べ人数では 5,849 人と報告を受けております。

次のページに参ります。成人の部について、まずは生涯学習コーディネーターとの協働事業であります「新年絵手紙はじめ」を開催いたしました。こちらについては、当館の社教団体である絵手紙サークルひまわりの講師にご協力いただいて開催となっております。基本の筆使いを学んだ後、イチゴ、菜の花、スイートピー、カボチャなど、いろいろなモチーフを思い思いに描いていただきました。昨日は、こちらのサークルさんに今後入会したいというお問合せもいただいております。今後も社会教育関係団体の活性化にもつながるような事業を開催できないか、検討していきたいと思っております。

次に、「脳を活性化！大人の塗り絵講座」です。2回にわたり、バラ、猫の塗り絵を体験いただきました。こちらの講師は、イタリアの路上でパフォーマンスをしていたという経験豊富な講師で、分かりやすい説明の中、ただ塗れば良いというのではなく、黒は青と茶色を重ねるなどのテクニックを学んで、皆さん和気あいあいと楽しんでいただいております。

次の「船橋を歩く」は、講師の体調不良のため中止となっております。

次のページ、「スマホアプリ活用講座」については、3月10日の人数が15名です。17日は13名に参加いただいております。こちらは、ご自分のスマートフォンに無料アプリをダウンロードいただき、実際に操作いただく講座となっております。アンドロイドとiPhoneに分けて講師が指導していく大変人気のある講座でございました。

次の「家庭教育セミナー」は宮本児童ホームとの共催事業で、幼児親子を対象に、3回にわたって親子遊びを体験いただきました。参加者の子育ての一助となるよう、今後も児童ホームと連携して親子を対象とした家庭教育事業を継続していきたいと考えております。

次に、高齢者の部を説明いたします。「宮本寿大学」の12月は公開講座で、例年の落語鑑賞会を木曜日の午前10時から開催しております。次のページになります。1月以降は、全て初めての講座を開催しております。3月の昨日の人数の記載をお願いいたします。45名の参加をいただいております。昨日は、講座と閉校式の2部構成で開催しております。閉校式では、皆勤賞、1日のみ欠席した精勤賞の方々に賞状と記念品を贈呈しております。年間を通じ、スポーツ、歌謡、健康、歴史、レクリエーションなど、多岐にわたる講座を計画してまいりました。来年度以降も、参加者が楽しんで、交流機会の提供につながるような事業を継続してまいりたいと考えております。

次の「ふなばしシルバーリハビリ体操教室」については、健康づくり課との共催事業で、残り1回の開催予定でございます。来年度は、フレイル予防効果が高まるように、公民館

主催事業を同様の内容で月1回開催予定でございます。

次の「げんき体操」については、3月11日の人数の追記をお願いいたします。14名の参加がございました。

次のページです。「地域ふれあいコンサート」では、ジャズアレンジでの映画音楽コンサートを開催しました。評価にも記載しておりますが、出席率が99%となっております。定員300名のところ、297名に参加いただいております。コンサートでは、参加者の方が音楽に合わせて手拍子をして、非常に盛り上がっていただきました。

次の「みやもと三百人劇場」は、人数の追記をお願いいたします。271名です。こちらはオールショパンプログラムのピアノソロ演奏で、2月とは打って変わってしっとりとしたピアノの音色に聞き入っていただいております。

次の「スタインウェイを弾いてみませんか」は恒例事業でございます。こちらは、受付開始から10分で定員に達しております。こちらはスタインウェイのピアノを弾く機会を提供する人気の高い事業ですので、今後も継続していきたいと考えております。

次のページをお願いいたします。「親子の趣味教養講座」については、大雪警報が発令されたため中止となっております。

「乳幼児親子わくわくタイム」は、宮本児童ホームとの共催事業です。人数の追記をお願いいたします。3月13日の午前中、10時から10時45分の1回目は25組53名の参加者でした。11時から11時45分の2回目については、31組69名の参加がございました。こちらは、児童ホームの職員が手づくりしたクレープやアイスクリームの販売、フォトスポットなどを用意し、親子連れで思い思いに楽しんでいただいております。毎年お店の種類を変えて楽しんでいただけるよう工夫しており、今後も継続していく予定でございます。

「宮本卓球開放」は、3月10日の人数を追記願います。11名でした。こちらは、年度途中から初めて参加される方もいらっしゃいまして、今後も地域の方々に卓球を通じての交流の場を提供していきたいと考えております。

次のページに参ります。「宮本公民館ほんの森」は、年間2回、利用者からのアンケートや話題本を購入し、最終貸出しから10年以上経過している書籍や汚れているものについてはリサイクルブックとして提供し、入替えを図っているところでございます。現在の蔵書は8,542冊です。独自の読書コーナーの利点を生かし、地域の方々に気軽に図書を楽しんでいただけるよう、来年度以降も継続してまいります。

「宮の森ギャラリー」は、今年度から廊下の両側を活用して、同時期に2団体の作品を展示できるように見直いたしました。来年度も継続して、6団体の創作意欲につながるよう、公表する機会の提供に努めてまいります。

「みやもとかわら版」については、2月27日にこどもまつり特集号をちいき新聞折り込みで発行しております。今後も地域の方々へ公民館まつりなど公民館事業の発信に努

めてまいりたいと思います。

以上でございます。

○沼波委員長

ありがとうございました。

海神公民館、よろしくお願いいたします。

○海神公民館長

海神公民館です。よろしくお願いいたします。

初めに、青少年事業の「ハッピーサタデー」です。1月17日に「ウクライナと出会う」というのをやったのですが、こちらは参加者が少なかったため、高校生やチラシに興味を持ったうちのダンスサークルさんにも参加していただいて、ウクライナの伝統的なダンスを楽しみ、大人と子供で盛り上がりました。

2月22日は「海神地区こどもまつり」を行いました。折り紙や昔遊びなどを体験し、ゲームやスタンプラリーといったものを楽しみました。子供たちの真剣な様子が印象的だったのと、「初めて来ました」という未就学児の親子連れもいらっしゃいましたので、公民館を知ってもらえるととてもよい機会になったと思います。アンケートでは、「模擬店が少ない」、「食べ物が多かった」という声が多かったため、来年度はこどもまつりでそちらのほうを検討していきたいと思っております。

次に、成人事業です。1月10日の「環境講座」は、農水産課と協働でコノシロを使った料理教室を行いました。漁師家族に船橋市の水産業、魚のとり方などの講義をしていただき、奥さんにコノシロのさばき方を習いまして、つみれ汁とさんが焼きをつくりました。一緒に船橋産のお米やのりでおにぎりをつくって、みんなで一緒にいただきました。初めて魚をさばくという男性からは、「さばくことが思ったより簡単で楽しい。家で楽しみたい」というお話を聞いております。この講座は、船橋市の漁業やコノシロの認知度を高めるよい機会となりました。

次に、毎年人気のある飛ノ台史跡公園博物館と共催の「考古学講座」です。毎年多くの方に参加していただくとても人気のある講座です。近隣からのリピーターも多く、初めて参加した方も何人かいらっしゃいましたので、講座継続の意義があるのではないかと思っております。

次に、「あるいてみる飛ノ台周辺の遺跡・史跡」です。こちらは、中央、宮本と同様に、講師の山本先生が入院してしまったため中止としております。

次に、「デジタルデバインドスマートフォン講座」です。今回は、アクティブシニア支援機構に講師依頼をしまして、自分のスマホを使った講座を実施しました。講座に参加される方の知識の差が大きいのと、自分のスマホで実施しているため、途中で都度都度質問が出てしまいましたが、講師の方が3人いらっしゃったため、そちらの3人の講師で対応することができまして、参加者の問題解決の一助になったと思っております。

次に、「地域防災講座」です。今回は水害への備えについて学びました。参加者がちょっと少なかったのですが、内容はとても充実しておりましたので、今後もこちらの防災講座は内容を変えていきながら継続していきたいと思っております。

次に、今年度の新規事業の「リカレント教養講座」です。時代の変化に応じた学習ということで、生成AI講座を実施いたしました。募集開始後すぐに定員になりまして、キャンセル待ちも出ましたので、AIについての興味の高さ、人気があることをすごく感じたところでございます。

次に、「家庭教育セミナー」は、市と包括連携協定をしている損保ジャパンによる「親子で防災ワークショップ」を実施いたしました。こちらは参加者が2組だったのですが、パズルやゲームで防災についてすごく楽しみながら学ぶことができました。自宅に帰って親子で防災について話すきっかけにもなるということで、家庭教育の充実にも寄与したものと思われまます。

次に、高齢者事業の「海神寿大学」、「ふなばしシルバーリハビリ体操教室」、「海神はつらつ健康体操」は、記載のとおり実施いたしました。参加者が未記入となっておりますので、お手数ですが記入をお願いいたします。3月18日の寿大学は62名、シルバーリハビリ体操の3月9日の参加者は48名です。

高齢者事業の寿大学もはつらつ体操もそうですけれども、毎月参加してくれる方がいましたし、体操したりおしゃべりしたり、元気になって笑顔で帰る姿を見ると、やはり高齢者の方の健康維持や交流にはこういった場が必要なのかなということを改めて感じております。

次に、その他の事業、「卓球開放事業」です。こちらも記載のとおり実施いたしました。3月7日の参加者は30名です。

次に、「ちびっこ広場」です。0歳～3歳児の親子を対象に、こちらも記載のとおり実施いたしました。保護者同士の仲間づくりを目的とした方がいらっしゃいましたので、後半は随分参加者のほうが固定されて、連絡先の交換なども見られましたので、仲間づくりの一助になったものと思われまます。すみません、12月24日の参加人数の訂正をお願いします。5組で10名です。

次に、「海神公民館ボランティア活動支援事業」です。3月13日の最後の事業は、参加者が11名となっております。ボランティアの方々の高齢化で活動時間や範囲が制限されてきておりまして、思うように実施できないのですけれども、集まることにも意義があるので、今後はボランティアの範囲でできることを少しずつ行いながら、無理をしない程度に行っていきたいと考えております。

最後に、「海神公民館だより『かいじん』」です。こどもまつりの特集号を掲載し、2,000部発行いたしました。館報を見て講座に申込みをしていただいたり、サークルのお問合せをいただいたりと、身近な情報手段として館報の力は大きいなと改めて感じたところで

す。

海神公民館からは以上となります。よろしくお願いいたします。

○沼波委員長

ありがとうございました。

各委員の皆様、質問等ありましたら、よろしくお願いいたします。

○山中副委員長

船橋の歴史に関する講座を3館でやっていますよね。山本稔さんという方が講師で。これはいわゆるドタキャンの形なんですか。それとも、かなり前に分かって。

○宮本公民館長

ぎりぎりですね。

○山中副委員長

船橋地名研究会は昔滝口さんがやっていたところですよ。あそこはメンバーが少なくなくいらっしゃるので、代役を立てるとかそういう話は。余裕は全くなかったんですか。

○宮本公民館長

依頼したんですけれども、やはり山本先生が考えていたルートだということで、紹介は難しいような状況だったので、残念ながら申込者全員に中止の連絡をしました。

○山中副委員長

先生の問題もあるかもしれないけれども、参加する人たち、船橋の歴史を知りたいというニーズは常にあると思うので、元気な先生を選んで継続することを考えていただければなど。歴史に関してはいろいろなテーマがあると思うので、もっと講座が多くてもいいんじゃないかと思うぐらいです。これはニーズはものすごくあると思うんです。

○沼波委員長

新年度は、講師の方を代えて同じような内容で継続されるんですか。

○海神公民館長

海神はやります。海神は飛ノ台との共催で、まだ案内する前だったので、飛ノ台の次の、山本先生の後に来た方をお願いしたのですが、今回は山本先生と一緒に引き継ぎながらやる予定だったので、1人ではいきなりできないと断られてしまいまして、やむを得ず中止にしたという形です。来年は、多分この次の方でまた考えていきたいと思っております。

○沼波委員長

多分応募された方も、次回にまた期待されていると思いますので。やっぱり住んでいたらどういふあれか知りたいですよ。

○山中副委員長

以前滝口先生がやられていたときにはいろいろなテーマがあって、すごく面白かった。

僕も何遍か参加したことがあるんだけど、遊郭の話であったり、薬草園の話であったり、今の地図と江戸時代の地図を比べたり、そのほか成田街道との絡みであったり、東照宮の話であったり、船橋は結構たくさんあるなど。津田沼は軍都でもあったとか。あぁいったことを含めて、古代のやつから江戸の末期の維新の頃、それから明治から昭和にかけての話、それぞれ結構面白い話がありました。脱線することもあったけどね。

○沼波委員長

新年度に新しい先生で期待をして。でも、山本先生もお元気になられば、また復帰されるでしょうから。

他の委員の方はいかがですか。

○山中副委員長

浜町さんの「サークル活動見学・体験会」で、3団体に入会者がいたということなんですけど、これはお分かりになりますか。

○浜町公民館長

そこはきちんと把握していないのですけれども、ウクレレのサークルに入会があったと話では聞いております。あとは詳しく調べてなくて申し訳ないです。

○山中副委員長

ウクレレの会に参加された方の年齢や性別は分かりませんよね。

○浜町公民館長

そうですね。そこまで求めなかったのです。

○山中副委員長

年を取った人なのか、あるいは、意外と40代の男性だったり。単なる好奇心です。

あともう一つ。やっぱり浜町さんなんですけど、「浜の子どもキッチン」で学生ボランティアが協力されたということですが、これはNPO法人の関わりの学生ボランティアですか。

○浜町公民館長

そうです。こちらのNPO法人コハレLABOさんがこども食堂をやっておりますので、その関係で毎回学生ボランティアの方が何名か来てくれるということで、この事業に関してもその学生ボランティアの方に入っていていただいて、各親子に数名ずつついてサポートするような形でした。

特に魚のさばきということで、大概のところは親子ということでお母さんに来ていただいたんですけども、お母さんでも魚をさばくどころか触れない方もいらっしゃるって、学生ボランティアにはこども食堂で魚の調理を経験した者もいましたので、スムーズにフォローする形でやっておりました。

○山中副委員長

これはすごく面白いなと思ったんだけど、今はデパートでもスーパーでも姿で魚

を売っているケースは非常に珍しい。東武の地下やシャポーでもごく一部。姿で売っていても、買っているのを見ると、みんな「おろしてください」と。だから、家でおろすことはない。しかも、コノシロは非常にニッチな魚だから。でも、これは非常にいいことであって、船橋のほうでも考えて、一般の市場と連動するような形での企画になったらもっと面白いと思うんだけどね。

ちなみに、そのボランティアの方なんですけれども、高校生、大学生、一般、男女比はどれぐらいですか。

○浜町公民館長

大学生とお聞きしていて、男女比は大体同数くらいでした。

○山中副委員長

立派。

続いていいですか。中央さんの合同事業なんですけど、千葉ジェッツからの依頼があったというチアダンスですか。32名が参加されていてすごいなと思ったんですけども、年代層はどんな感じですか。

○中央公民館職員

今回は合同事業なので、南部地区の4館で実施した事業なんですけれども、年代としては60歳以上という形にしていますので、60代から70代の方が参加されました。定員の40名に達したのですが、当日来られなかった方もいて、それで32名という状況でした。

○山中副委員長

すごいね。

○沼波委員長

コスチュームもちゃんとあいうコスチュームにしたんですか。

○中央公民館職員

コスチュームはなくて、ただボンボンをお借りして。

○沼波委員長

動きやすい格好で。

○中央公民館職員

はい。男性の方も2名ぐらい参加されていて、女性だけではなくて男性の方にも参加いただきました。チアダンスということで、スクール生の小学生の方が一緒に練習して、世代間交流という形で一緒に練習や発表もできた事業でした。

○山中副委員長

千葉ジェッツは何を目的としたんですかね。ここでいくと分かるんですけども。

○中央公民館長

多分地域活動というところで、自分たちの宣伝にもなるので。よく子供向けのバスケット教室なども熱心に行っておりますので、そういった中で、健康づくりという形で地域に

寄与しているところが、企業としての宣伝効果がかなりあるのかなと思います。

○山中副委員長

そういう活動の一環で、あちこちにそういうのを振っているんでしょうね。それで、こちらで開いたらそこそこ人気があった。参加者も喜んでいた。

チアダンスをやる高齢者って元気だね。

○中央公民館長

西部の地区ですけれども、シニア向けのディスコの事業をやったらかなり盛況だったということで、やはりご高齢の方も高齢者向け教室というよりも参加意欲が湧くと思います。

○山中副委員長

そうなんだよね。昔の高齢者と今の高齢者は違うんだよね。考え方も、着ているものだってそうなもの。昔の高齢者は本当に高齢者だったけれども、今の高齢者は昔のお母さんの感じだものね。着ているものや歩いている姿も。だって、高齢者でしょう。

○沼波委員長

そうですよ。

○山中副委員長

高齢者ですよ。高齢者だよ。ちっとも高齢者に見えないもんね。

○沼波委員長

フラダンスもすごく盛んですものね。

○山中副委員長

やっぱり今の人には元気なんだね。中東は大変なのに、ここは平和だよな。

学生ボランティア、高齢者と、結構公民館の活動の中ではいろいろな年代層、関わる人がたくさんいるんだなと改めて思って、公民館活動ってばかにできないなと。

○沼波委員長

私もこどもまつりのときに感じましたけれども、若いお父さんが赤ちゃんをちゃんとホールドして、お母さんのほうがのんびりと。すごくよくやっていた。

○山中副委員長

そうそう。僕は宮本公民館ができてからずっと宮本公民館に通っているんだけど、最初の頃のこどもまつりと違って、今のこどもまつりは大人の参加がすごい。

○沼波委員長

若いお父さんとお母さん。

○山中副委員長

若いお父さんというか、おじいちゃんもおばあちゃんも若いよ。びっくりしたもん。うちの子供たちで小さい子がいて、「おばあちゃん」と呼んで、おばあちゃんも来ているのかと思って見たら、とてもおばあちゃんという感じではない。隔世の感もあるけれど

も。昔の父親なんて、そんなところに行かなかったでしょう。そんなこと言ってはいけな  
いけれども。今は家族全員で来るもんね。だから、宮本の来場者発表の数字を聞いたとき  
に、そうだよな、あの混み方だったら延べ 5,000 人というのは納得の数字だよなと思っ  
た。だって、食事をしようと思ったら、食事する場所がなかったものね。どこも満杯で。  
余計な話をしました。

○沼波委員長

皆さんが楽しみにしてくれているから、とてもいい催しだと思います。  
いかがですか、女性陣。何かありませんか。

○中野委員

確認してよろしいですか。中央さんの「巡回児童ホーム事業」の3月6日は、19組の  
37名とおっしゃったんですよね。

○中央公民館長

はい。

○中野委員

私もちょっとお手伝いに行ったことがあって、いつも割合と少ないんです。ここだけぐ  
っと人数が増えていて、いいことだなと思うのですが、何かその間にアクションがあっ  
たのか、急にこんなに来てくれた理由というか、何かあるんですか。

○中央公民館職員

やった側もはっきりとした理由は分からないのですが、1月はちょっと人数が少な  
かったんですけども、口コミなどで紹介していただいたところがあって、それで3月は集  
まっていたいただいと。

○中野委員

これが続くといいですね。ありがとうございます。

○山中副委員長

2つあるんですが、1つはスマートフォンの高齢者向けの講座が充実してきたんです  
けれども、最近、テレビのニュースでもそうですし、SNSのをいろいろ見ていると、高齢  
者がSNSで詐欺に遭うケースが急増していて、その警告のコンテンツがかなり増えている  
んですよね。それもものすごくいろいろなケースがある。だから、スマートフォンアプリ  
も、アプリを使うことを覚えて、次に自分で好みのアプリを選んだりすると、引かかる  
ことが多分に考えられるので、使い方の中でも恐らくそういうことを言われていると思  
うんですけども、スマートフォン講座では常に犯罪との関わりについての警告、予防、  
安全というのを入らせていただければというのが1つ。

それから、先ほど海神公民館の「ウクライナと出会う」というのがありましたよね。こ  
れはテーマそのものはすごく面白いと思った。国際交流協会がありますよね。今、全国的  
に、ウクライナからの難民というか、戦火を逃れてこられた方が相当数日本にもいらっし

やるということなので、船橋もそうだと思うんですけども。ウクライナだけではなくてほかの国の方も含めてなんだけれども、各館のまつりのときにそういう国際的な要素というのを入れてみたら結構面白いんじゃないかななんて来る前に思っていました。いろいろな機会でも国際交流——国際理解と言ったほうがいいね。交流までしなくても、お互いが理解するという、それだけでも随分違うので。

宮本では日本語講座をされていますけれども、ほかの館も日本語の講座というのは社会教育関係団体で入っているのでしょうか。

○海神公民館長

うちは入っていないと思います。

○浜町公民館長

入っていないです。

○山中副委員長

浜町も入っていない。中央はいかがですか。

○中央公民館長

入っていないです。

○山中副委員長

宮本だけなの。もったいないね。宮本はどれぐらいの人数が今来ているんですか。

○宮本公民館長

すみません。把握していません。

○山中副委員長

いつもいつも同じ人が来ていると、時たま出会うことがあるんだけど。

○沼波委員長

宮本は多いんですか。

○宮本公民館長

10人以上はいると思います。

○山中副委員長

多いときは30人ぐらいのときもあったけれども、最近は(少ないです)。この前は机がだーっと並んでいたから、また盛況になったかなと思った。たまたまうちと向かい合わせで、終わってから見たら、あまり来ていたようには思えない。10人か15人、そんなものかなという感じで、ふっと思ったんだけど。

前はベトナムの人やタイの人が多かったと聞いているけれども、今はどこの人が多いのかな。中国人がすごく地域に多くなったのに、日本語をしゃべれない中国人がすごくいる。

○中央公民館長

今ですと、やはり国だとベトナム、中国は多いですね。

○沼波委員長

東南アジアは多いですよ。逆に中国の方はちょっと落ち着いてきたというか。東南アジアのほうがちょっと増えたかな。

○中央公民館長

あとはネパールとか。

○山中副委員長

うちの近所のアパートは、ネパール、ベトナム、スリランカ。

○沼波委員長

すごいですね。国際色豊かですね。

○山中副委員長

3人とか4人家族になっているのは、アパート、マンションの2Kや2DK、それから戸建てとか。戸建てというと中国人。マンション、アパートは、中国人とネパール、ベトナムがいる。若いのは分からないのがたくさんいる。中東という感じの若い人が、結構ここ半年ぐらいで増えていますね。余計な話になってすみません。

○中央公民館長

この辺の地域ですと、湊町にある日本語学校など。工場が多いので、技能員などのビザで来られる方とか。

○山中副委員長

いっとき、あそこはタイ人の学生がほとんどだった。どんどんどんどん変わっているみたいだけれども。コンビニに行って、コンビニのレジで、10回行ったら10回……

○沼波委員長

日本人ではない。

○山中副委員長

日本人もいるけれども、日本人ではない。10回行って5回は日本人がいない。そんな感じね。でも、あそこで働いている人たちはみんな感じがいいね。

○沼波委員長

もう当たり前になってきていますよね。外国の方が隣にいるというのは。

○山中副委員長

ああいう方々は、地域に住んでいても地域となじむということもなかなかなくて、自治会でも実態は把握できていない。民生委員のほうでも把握できていないでしょう。社会福祉協議会も把握していないでしょう。把握しているのは市役所ですよ。住民登録が当然そこにあるから。登録されていない人もいるのかもしれないけれども。でも、大体は登録していると思うんですよ。

船橋のここら辺に住んでいるのは、ここら辺というのは本町ではなくて、駅周辺は皆それなりにちゃんとしていると思うんですよ。不法就労はあるかもしれないけれども、不

法滞在はまずいないなという感じですよ。

○中央公民館長

永住ですともう少し地域になじもうという気持ちもあるんでしょうけれども、短期でいて帰られる方だとかなかなか。

○山中副委員長

それはそうですね。

○中央公民館長

気持ち的にもあるのかなど。かえってお祭りやこういうイベントでしたら、呼べる可能性はあるとは思いますが。

○山中副委員長

ただ「来い」ではなかなかできないと思うので、国際交流協会とか、ああいったところとうまく企画を。

○沼波委員長

あとはお子さんを交えて。小さい子がいれば、その子を連れてという感じですよ。

○山中副委員長

子供が小学校に通っているとか、中学校に通っているとか、あるいは保育園というふうになれば、それつながりでいろいろできるだろうけれども、地域になじむ上で催し事に参加するというのはね。船橋のお祭りのときは結構あちこちの外人さんが。中国人と韓国人は見ても分からないから分からないけれども。

○沼波委員長

公民館はそういう意味でいい交流の場ではあるんですよ。

あと、ほかにありますか。大丈夫ですか。

○中央公民館長

一つだけ宣伝なんですけれども、浜町の「浜の子どもキッチン」の事業が、つい先日、公民館職員に人気の講座をそれぞれ一つ出してもらったところ、実は大賞をもらいました。事務室のところにトロフィーや実際の事業の様子の写真がありますので、お帰りの際によろしければ見ていただければと思います。

○山中副委員長

面白い企画ですよ。あれを見ないで、これを聞いただけだったら分からないですよ。これではあれが分からない。あれを見ないとこれが分からない。

○沼波委員長

せっかく海が隣接しているいい場所にあるんですよ。

○山中副委員長

僕はあれこそが南部の合同事業だろうと思った。船橋の少なくとも南部の子供たちには、船橋の港のことや船橋の海のことをじかに肌感覚で知ってほしいですよ。

○沼波委員長

昔から一定の流れはありますよね。三番瀬の見学なども定期的に行っていましたし。

○山中副委員長

学校でやっているよね。

○沼波委員長

いろいろな団体が結構申し込んで。大分昔ですけども、そこから船が出たときに乗って、三番瀬へ行って、浅瀬になっているときだからみんなを降ろして、そこでいろいろな魚を見て、結構楽しい時間でした。帰りに船のところでアサリのみそ汁を提供して。そういう時代があったんですよ。

○山中副委員長

それはいつの話？

○沼波委員長

うちの子供が小さい頃ですから、何十年も前。20年ぐらい前かもしれない。

○山中副委員長

沼波さんが子供の頃の話をしているのかと思った。

○沼波委員長

私が子供の頃はカニでした。カニとカレイ。おやつもワタリガニでしたね。ゆでて嫌というほど。花火もそこでやっていたときでしたから、それは大昔です。

でも、やはり海があると、親戚の子たちも海に縁がなければ来てくれるし、とてもいいところだと思うんですよ。今はこんな立派な施設ができて、ららぽーとができてアリーナができて、すごく人が増えていますもんね。浜町はちょっと大変でしょうけど。

○浜町公民館長

この「浜の子どもキッチン」につきましては、今、合同事業でというお言葉もいただきましたが、浜町公民館でやる上で、小学校にチラシを配らせていただいたのですが、湊町小学校と若松小学校に絞らせていただきました。というのは、海が近くにある学校ということで、今回講師で来ていただいた海光物産さんも湊町にある企業ということで、特に湊町小学校のお子さんは、校門を出てすぐ船橋港があります。そこに船が止まっています。そこから出た船には何があるんだろうということも見ていただきたくて、あえて限定してこの2つの小学校に募集をかけました。学習塾等で聞いたということで、ほかの小学校からの申込みもあったことは事実なんですけれども、あえて限定させていただいてやってみました。

○山中副委員長

ずるいね。

○沼波委員長

でも、仕方がない。

○山中副委員長

地の利があるからね。

○沼波委員長

今はどうか分からないですけども、ちょっと前までは屋形船もありましたものね。あ  
あいうのも子供に体験させてあげたいですよ。

○山中副委員長

昔、30年ぐらい前に、宮本で親子の釣り教室を3年連続でやって好評だった。2回で  
やるのと3回のときもあったんだけど、仕掛けをつくることも覚えて、自分で仕掛け  
をつくって、その仕掛けで釣るということでやったんです。

それで、薬円台の公民館から頼まれて、何でかと思ったら、たまたま公民館の館長同士  
の話で来年お願いしますと。社交辞令だと思ったんだけど、翌年来て、そのときに話  
を聞いたら、自衛隊の子供たちがあそこは結構多いので、その関係で。あそこは落下傘部  
隊、精鋭部隊ですよ。結構家族を持っている人がいて、あちこちから来ている人が多い  
ので、船橋を知ってもらおうと。船橋には海がある。薬円台は遠くて船橋の海に行く機会  
がないから、それをチャンスにしたいのでお願いしたんだと。なるほど、そういう考え方  
もあるんだなと思った。

だから、ここは本当に地の利があって、海が近いから海に絡むイベントもいろいろでき  
ますよね。でも、海からちょっと離れているけれども、海に行ってみたい子供はたくさん  
いるんですよ。

20組40人でやったけれども、申込みがすごく多くて、夏休みイベントで夏休みにやっ  
て、さらに秋にももう1回やった。そんな記憶をこれを見ながら思い出しました。そんな  
こともあったなと思って。

○沼波委員長

大分時間がたってしまいましたけどね。あつという間でしたよね。

○山中副委員長

今日はやることがないから、いくらでもしゃべれるなと思って。

○沼波委員長

お二方はいかがですか。何か。

○染谷委員

先ほどの浜町公民館の「浜の子どもキッチン」は、参加者数を見ると親子8組で募集し  
て、お話を聞いたら、調理しているのはお子さんだけだったという感じが強い。今の親御  
さんは、頭のついた魚の調理というのはあまりされないのかなと。だから、魚のさばき方  
でも学んで帰ろうという親御さんが参加している感じではないですよ。

○浜町公民館長

お子さんが包丁を使ってというのが難しい中で、お母さんもぬるぬるがちょっと嫌だ

ったところがあると思うんですけども、きちんと3枚にさばくことはやっていらっしやいました。コノシロ自体が非常に小骨の多い魚なので、砕いてハンバーグということで提供しました。

○沼波委員長

でも、本当にこういう食べることやつくることは、人の参加があつという間に。やはりみんな興味があるんですよ。

○山中副委員長

自分でつくって食べる体験というのはすごくいい体験だよ。

○沼波委員長

格別おいしいでしょうからね。浜町はそばもやりますしね。あれも自分で打ったそばはおいしいですね。

○山中副委員長

あれも何で浜町ばかりやるんだろう。

○沼波委員長

ちゃんとそういう有志がいるから。

○山中副委員長

たまには浜町が辞退して、宮本に貸してあげるとかすればいいのに。

○沼波委員長

合同でやるか。

○山中副委員長

そう。合同でやるとか。いろいろあるんだろうけど。

○沼波委員長

皆さん教え方もお上手だし。

○山中副委員長

浜町は本当に企画として幅広いいろいろな要素を持っているから。前にそこに船があったときはもっとそうだった。

○沼波委員長

結構楽しかったですよ。来年度もまた楽しい企画を考えていただいて。

女性陣は。三宅さん、大丈夫ですか。

では、ないということで、承認よろしいでしょうか。

(「異議なし」の声あり)

○沼波委員長

今日はこの議題しかないのです。

皆さん2年間ありがとうございました。また来年度も同じメンバーで行くんでしょかね。

○山中副委員長

皆さん異動はないんですね。

○沼波委員長

まだ分からないですね。

○山中副委員長

まだ分からないんだね。もしかしたら、4月の第1回に行ったら、知らない人ばかりでこっちがどこに行ったらいいか分からなくなったりして。

○沼波委員長

2年間ありがとうございました。

○山中副委員長

おしまいですか。

○沼波委員長

はい。今日はこれで。特にもうないですね。

○事務局（中央公民館長補佐）

それでは、委員長、ありがとうございました。委員の皆様、2年間温かいご指導をありがとうございました。

最後に、皆様から一言ずつ頂戴いたしたく存じます。特に、これからの公民館運営に向けた改善点や今後どのような役割を期待するかといった観点からお話しいただけますでしょうか。

恐縮ですけれども、宮崎委員から時計回りで進めていただければ幸いです。

○宮崎委員

最後に当たって、今日はそういう宿題が出ていたようなので考えていたんですけども、今日、話題がたまたま出て、我々南部ブロックは4公民館が集まって南部ブロックということで、さっき話題にも出ていたのですが、みんなそれぞれに土地柄があって、海の話とか魚の話とか、浜町さんの土地柄なんだろうなと思って感心して聞いていました。土地によって場所の生い立ちや形が違うことを考えると、私どもは本町に住んだもので、本町地区の感覚とやはり違うなど。そういう面で、こういう公民館の催しでそういうことをいろいろ聞けることは本当にためになったし、これからもまたそういうお話を聞かせてもらいたいと思っています。

本町辺りの土地柄というと、商家が多かったのではないかなと思います。それに比べると、浜町さんの辺りや海神さんの一部もそうだと思うんですけども、海が近い。そういうなりわいが当然発生していたと思うので、もっといろいろな地域のことを、自分のところだけではなく、さらにいろいろ勉強したいなと改めて思って、先ほどから伺っておりました。

今後ともよろしくお願ひしたいと思ひます。ありがとうございます。

### ○染谷委員

私が利用する地域としては中央公民館が多かったんですけども、最近は使えないので、今は浜町さん、宮本さん、海神公民館等を利用しているのですが、感じたのは、ここ浜町さんの1階もそうですし、テーブルと椅子が置いてあって、そこで小学生ぐらいの児童が本を広げて自習しているんですよね。先日海神公民館さんに行ったときも、玄関に入って突き当たりにフェンスがつくってあって、椅子があって、ああいうところで子供が本とノートを広げているんです。浜町さんは入って左のところに大きなスペースがあって、そこでは子供たちがスマホを出してゲームか何かをやっているんですけども、それではなくて、本を広げて鉛筆を持って自習だか予習だかをやっている子が目につくんです。

公民館でそういうことも確かにありだなと。子供たちがそういうところを探してやっているんだなと。大人でしたら、図書館に自習室が必ずありますよね。そういうところは分かるんですけども、公民館で本を広げて学習している。これを見たら、やはり子供のほうが早く利用できるところを探しているという感じを受けました。パーティションを置いていただいたり、テーブルだけではなくて椅子も置いていただいたりという形で、ものすごくお子さんが利用している。そういう形で、私だったらちょっと座りたいなと飲み物でも飲むけれども、子供たちが学習しているので、そういうスペースを見たら、そうだな、この辺には図書館がないものなと。

そういう利用の仕方のためのスペースの提供も、需要と供給を考えたら需要があるんだなということを感じました。そういう施設をちょっと置いていただければありがたいと思います。子供たちに聞いたことはないけれども、見ていると各公民館さんで結構利用していますね。それが最近非常に感じたところです。大人よりも小学校の児童のほうが多いですね。そんなところです。

### ○中野委員

こちらに伺うようになって、諸先輩がいて私は一番古くないので、10年近くになるかなと思うんですけども、その最初の頃から比べると変わってきたなと思うことがいくつかあります。先ほどもお話のあったスマホ教室やリカレント教室。体操教室は昔からあったのでしょうか。あと、サークルの見学会など、そういう以前にはなかったものも、高齢化と関係して、時代の要請を受けて企画してくださっているんだなと感じています。

先ほど染谷さんが子供たちのことをおっしゃいました。高齢者と子供が公民館のお世話になることが多いと思うんですけども、先ほどもボランティアで学生さんが参加してくださると本当にいいなというお話もありましたけれども、中間層辺りを公民館に集めてくるのは本当に難しい。今は仕事も忙しいし。そういうところを工夫していくのが大事なのかなというふうに思っています。いつもありがとうございます。

### ○三宅委員

長く公民館運営審議委員をやっているんですけども、実はサークルとかそういうこ

とで公民館をお借りしたことが一度もないんです。もう一つ実を言うと、こういう催し物に出たこともないんです。こどもまつりやコンサートなど、実行委員に入っているものはやらせていただいているんですけれども、そうでないものの参加を今のところしていないんです。でも、逆に、客観的に、中にいないからこそ表から見ることができるのかなと考えながらさせていただいています。

もう少し時間に余裕が出たら、どんどん参加できるようなものを見つけて参加していてもいいなと思い始めている今日この頃でございます。またよろしく願いいたします。

○山中副委員長

三宅さんと違って、僕は……

○三宅委員

真逆ですね。

○山中副委員長

真逆まで行かないけれども。最近はまだ年なのであれだけれども、委員になって20年になるのかな。当時一番面白かったのがDIYです。DIYは海神が毎年面白いのをやってくれて、宮本でやればいいのと思ったんだけど、宮本だと知っている人が来るからあれだと思って。そのときは女房と一緒に参加しまして、参加している人に、どこから来られましたか、お近くですかと聞いたら、「薬円台です」、「金杉から来ました」と。津田沼の人もいた。一番すごかったのは浦安。どうやって知ったのかなと。友達から聞いて、友達と来たんですって。

そのときはものすごく好評だったので続けてやっていたけれども、しっくいを塗るというのがありました。DIYを春、秋にやったんだよね。しっくいは面白いなと思った。ふすま張りもやって、その次が壁紙。壁紙を上手に貼る。簡単なのよね。それで、僕はふすまもやったし壁紙もやりました。あれが今はない。もう僕はできないけれども、マンションを買った人や家を建てた人や購入した人は、必ず何年かたったら必要になるのがDIYなんです。庭がある人、犬を飼いたい人は犬小屋をつくる。猫を飼う人は猫のためのちょっとしたものをつくる。DIYでやる人が多いんだよね。

でも、そういう講座が最近はない。昔はあった。昔は海神さんが熱心だったね。あの館長が好きだったんだと思う。年に6日ぐらいやっていて、何年かやった。しっくいなんかは3回ぐらいやりました。毎回満杯で、僕は3回とも全部出ました。3回目になると、講師の人と顔見知りになっているものだから、「山中さん、手伝ってあげてください」、「いいですよ」なんていい気になってやっていた。あれはすごくよかった。

今もまたしっくいが小さなブームになっているのはご存じですか。テレビなんかでもやっていたけれども。20年ぐらい前のときは、壁紙のホルムアルデヒドの問題があって、しっくいを塗ることで解消できるということもあって、余計人気が出ていたんだけど

も、今はまたおしゃれということで人気が出始めているらしい。

そんなこともあって、さっきの船橋の歴史をもっともっと幅広く。すごく裾野も広いし、深さもあるし、船橋の飯盛女の話も面白かった。船橋でなぜそういうものが盛んになったか。その後を継いで軍都になったから、余計そういう花街が船橋では盛んになったんだと。軍人さんでも、中級将校は船橋に住んでいた。だから、津田沼とはまた違う。そういう話も滝口さんから聞いて、そうなんだと思って、それで結構船橋の歴史に興味を持って、僕なりにいろいろ読みました。

そういった意味で、過去の講座を見直して面白そうなものがあつたら、ディスカバリーしてもらえませんか。

以上です。またよろしく願いいたします。

#### ○沼波委員長

皆さんのお話を聞いて、私が一番気になるのは高齢化で、山中さんもおっしゃったけれども、継続ですよ。参加団体の高齢化はもう目に見えているので、それをうまくつないでいくシステムのようなものがあるといいなと。そうしたら、消えずにつながっていく。

山中さんの今のDIYも出ましたけれども、きっとその時代の要請があつただろうし、でも、引き継ぐ人がやっぱり途絶えたんだと思うんですよ。だから、やっぱり公民館の一つの仕事として、団体に対して継続をしていけるような指導を常に考えているといいのかなと。これはもうどの団体でも言えると思います。一度消えてしまうと、なかなか復活は難しいことはみんな身に染みて分かっていると思うので、その辺をもうちょっと意識的にやってもらえたらうれしいかなと思います。

今、山中さんがおっしゃったように、確かに過去に面白い催し物がたくさんあつたと思うので、そういうのを遡ってチェックするのもいい作業かなと思います。

皆さんが一生懸命やっているのは実際に公民館に足を運んで存じ上げていますので、これからもお互いに意見交換していけたらいいなと思っております。ありがとうございました。

#### ○事務局（中央公民館長補佐）

貴重なご提言を皆様ありがとうございました。いただいた貴重なご意見は、今後の公民館運営における重要な指針として誠実に受け止めてまいります。本審議会の運営に多大なるご尽力を賜りましたこと、改めて厚くお礼申し上げます。

以上をもちまして、令和7年度第5回中央公民館運営審議会を閉会いたします。ありがとうございました。

午後4時28分閉会